

最終回 市民ワークショップ

「豊野地区の公共施設の将来像について考えよう」 をテーマにグループ討論を行いました

9月15日(土)豊野支所で、最終回となる第3回「豊野地区の公共施設を考える」市民ワークショップを開催しました。

前回の内容を振り返った後、活発なグループワークを行い、各グループからまとめの発表がありました。信州大学工学部の羽藤准教授からの講評、住民自治協議会の山岸会長のあいさつ、長野市の倉石総務部長から御礼のあいさつの後、参加者全員で記念撮影を行い、豊野地区のワークショップは幕を閉じました。関係者の皆さま、ありがとうございました。



3回のワークショップでは、信大 羽藤研究室の学生も交え、地区の将来像や自分たちにできることなどを話し合い、グループごとの公共施設の再配置や利活用案を、短い時間の中でまとめていただきました。(詳細は次ページをご覧ください)

今後、具体的な再配置等に向けた検討につきましては、今回のワークショップでいただいたご意見等も参考に、地域の皆さまや、広く市民の皆さまのご意見をお聴きしながら協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

今回のワークショップ(WS)は、豊野地区住民自治協議会のご協力のもと、公募及び地区内からご参加いただいたメンバーで、熱い討論を重ねていただきました。

市民ワークショップや公共施設マネジメントに対するご意見、ご要望などありましたら、遠慮なく下記までお寄せください。

【お問い合わせ先】
公共施設マネジメント推進課
電話:224-7592
豊野支所 電話:257-3131



WSの資料は長野市ホームページに掲載しています
(市民ワークショップのページ)
<https://www.city.nagano.nagano.jp/site/koukyou-ws/>



各グループの公共施設の将来像の概要をご紹介します

Aグループ

【コンセプト】 トモダチ100人つくろう！

《効果》

- ・コミュニケーションがはかれる
- ・つながりが生まれる

《自分たちができること》

- ・人集め ・まず参加！ ・立ち上げる ・学ぶ

《課題》

- ・人材（施設管理者、諸事業のリーダー）
- ・建物整備 ・公民館建替え

地区内3ヶ所（中心・東・西）
それぞれに必要な機能

- ・体操のできる場
- ・老人のお茶飲み場
- ・みんなが気軽に集まれる場所（おしゃべり）
- ・お母さんたちの交流場所

豊野公民館

建替えて機能を集約

- ・住民自治協議会が指定管理
- ・スポーツ・趣味・健康講座
- ・図書館の充実
- ・子供たちの勉強の場
- ・資料室（現資料館を廃止）
- ・人材育成

農産物加工所

豊野ひがし保育園

豊野さつき保育園

豊野東小学校
（空き教室利用）

豊野西小学校
（空き教室利用）

Bグループ

【コンセプト】 幼児老人福祉

不要な施設の削減と必要な施設の存続と充実化

《効果》

- ・幼児、老人福祉 ・施設数の減少
- ・学校、保育園が残る
- ・【老福センター】サービスがワンストップで受けられる

《課題》

- ・使う時間が限られている
- ・施設の鍵の管理
- ・施設の空調が一括管理で非効率
- ・【老福センター】集約後の管理体制

《自分たちができること》

- ・施設に理解を示し、住民の理解、興味を高める

保健センター

こぶし

地域包括支援センター

老人福祉センター

農産物加工所

人権同和教育集会所

支所へ機能移転

福祉系の施設をひとつに
ワンストップサービス

小学校の空き教室
を活用

取り壊してもよい施設

- ・公民館、豊野教職員住宅、校長用住宅

Cグループ

【コンセプト】 ・コミュニティ ・中心部を整備し周辺に拡大
・ごった煮の場所

《効果》

- ・使いやすい
- ・人が集まる
- ・集約することで足を確保しやすい
- ・豊野のニューモデル（時代に合わせた使い方）

《課題》

- ・予算がわからないと具体性が出ない
- ・運営の人員

《自分たちができること》

- ・ボランティアへの参加（オレンジカフェ、子供食堂など）

豊野公民館

建替え（用途を制限しない）

- ・365日使える施設（時間制限なし）
- ・図書館＋地域文化＋学びの場
- ・ボランティアサークル活動
- ・子育て（児童、生徒が学べる場）
- ・子供、障害者、高齢者の施設

中心部の整備

- ・支所3階 空きスペースの有効活用
- ・農産加工＋販売店＋飲食（経済の場）

東・西部

- ・既存施設の活用（農産物加工所の充実など）

Dグループ

【コンセプト】・中心部の施設の活用をモデルとして考える→西や東に展開
・施設の機能をコンパクトにまとめて交流を生み出す

《効果》

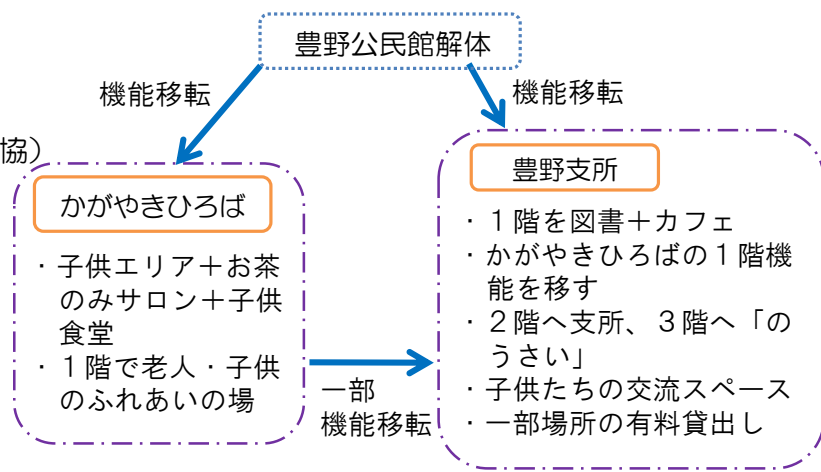
- ・透明化 ・世代交流 ・安心
- ・単体での活動が全体での活動になる

《課題》

- ・どこが運営していくか（行政、市民、住自協）
- ・情報発信の仕方（取組みの周知、SNSが使えない人への発信方法）
- ・費用対効果

《自分たちができること》

- ・SNSでの発信 ・マルシェの開催
- ・防災無線での発信
- ・活動予定をカレンダー等で住民に周知
- ・新しい取組みを探す



Eグループ

【コンセプト】子育て・災害対策

《効果》

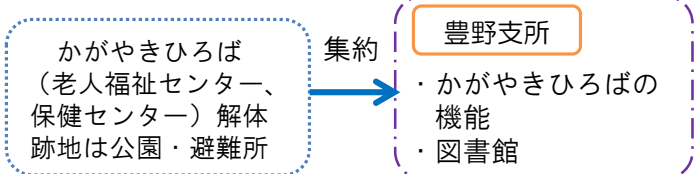
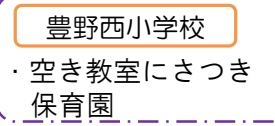
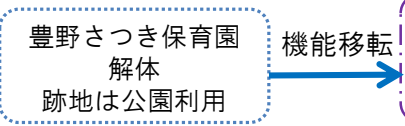
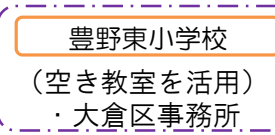
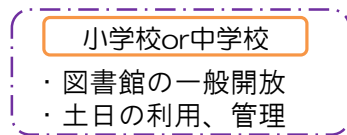
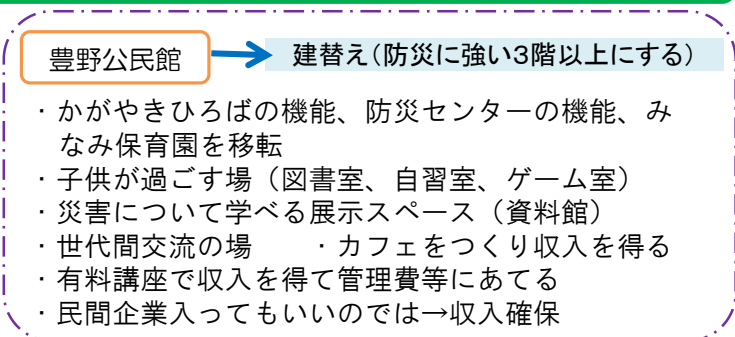
- ・安全性の向上
- ・子供が集まる→親が安心
- ・窓口がひとつになりサービスが受けやすくなる

《課題》

- ・中心部への交通手段
- ・新しい建物の作り方

《自分たちができること》

- ・空きスペースを民間の企業に貸出し財源確保
- ・図書館にカフェをつくり収入を得る
- ・有料の教室、講座を開いて財源確保



羽藤准教授

【羽藤准教授の講評】

3回のワークショップお疲れ様でした。我々の研究室として参加させていただいていることに対し御礼申し上げます。学生が外に出て、公共施設の問題や、市民の皆さまの考えに触れ、すごく勉強になっています。

前回の議論をみていると、最終的に分散型の考えに意見が集まるのではないかと予想していましたが、結局、公民館を中心とした中心部をどうするかに皆さん関心を示され、それだけでなく、地区の東や西にある施設のあり方にも課題意識をしっかりと持たれていることがわかりました。

今回のWSで出された意見を参考とし、今後の施設の政策に反映されていくと思いますので、そういう意味でも有意義なものになったと思います。



参加者アンケートの主な意見をご紹介します

【Aグループ】

- ◆豊野町を自分の町として、もっとみつめて取り組んでいかねばと思った
- ◆公民館を住自協が管理すれば使用効果が高まるのでは？
- ◆地域住民の意識改革が大事。何ごとにもまず参加するという心が何より大切な事と思う

【Bグループ】

- ◆公共施設の再確認とその重要度が認識出来た
- ◆ハード面も大事であるが、ソフト・活用面が重要であり、継続出来る体制が必要
- ◆施設の必要性が理解できた

【Cグループ】

- ◆世代間交流の機能をもった集約型の施設等、是非予算に基づいた提案として聞いてほしい
- ◆機能別の箱をつくるのではなく、多目的に使い、年代や地域をつなぐ場が必要と思う
- ◆「ごった煮社会」が良いと思う

【Dグループ】

- ◆使いやすいように考えていくべきだと思う
- ◆現存の公共施設を当たり前のように使ってきたが、使う側も一緒になってこれからの施設のあり方を考えていかなければならない
- ◆いつも使用している施設に対してどの様に集約出来るのかを考える良い場でした

【Eグループ】

- ◆なんでも集約と思っていたが、色々な世代の事を考えると分散も必要だと思った
- ◆思っていた以上に意見がバンバン出ておどろいた。自分は思っている事をあまり言えなかったというか、考えが追いつかなかった。もっと時間があつた方が良かった
- ◆中心部施設の活用方法を考えることができて良かった



住自協 山岸会長



倉石総務部長



【住民自治協議会 山岸会長あいさつ】

お忙しい中、大勢の皆さまにご出席いただきましてありがとうございました。
素晴らしい意見を出していただき、感謝を申し上げます。皆さまからいただいたご意見を最大限に尊重し、住民自治協議会の様々な話の中でも検討を進めていきたいと思ひます。
信州大学の皆さまはじめ、ここにおられる全員の皆さまに、御礼と感謝を申し上げます。

【倉石総務部長から御礼のあいさつ】

何かとお忙しい中、休日を返上し、3回のワークショップにご参加いただきまして、メンバーの皆さまに深く感謝を申し上げます。
人口減少や少子高齢化など、公共施設をとりまく現状と、豊野の活性化や多世代交流などを見据えた、大変熱心なグループ討議、活発な議論をいただきました。ありがとうございます。
各グループからいただいたご意見も参考にさせていただき、豊野地区の公共施設の在り方、将来的な再編・再配置を検討してまいります。

豊野地区のワークショップ開催に御協力いただいた皆さまに、改めて厚くお礼申し上げます

